第11回 高原地区街づくり協議会　議事録（要旨）	
開催日時	平成30年３月28日（水）18：30～20：30
開催場所	福祉センター
出席委員	12名
欠席委員	南浦委員、前嶋委員、植村委員、木村（勇）委員、木村（洋）委員
事務局	上田課長、岩田課長補佐、岡島係長、藤田主査 （関係課）教育委員会・吉岡次長、農林課・山村課長・色雲係長

議事内容

１．開　会　－18：30－

２．市長挨拶

年度末大変お忙しい中ご参集を賜りましてありがとうございます。前回が夏でしたので少し間が開いてしまいましたが、その間にも地域の皆様方ご自身によって非常にたくさんの取組を進めていただいています。今日は地域で行われている活性化の取組を皆様方と共有させていただきながら、どの点とどの点がさらに連携できるか、ご一緒にさらに発展させていただけるか、来年度に向けた方向性を確認して参りたいと思います。

わたくしどもとしても移住・定住に向けた取り組みについて、ぜひご議論をさせて頂ければと思います。遅い時間の開催で恐縮ではありますが、ぜひ闊達なご議論を賜りますことをお願い申し上げて、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

３．議　事

(1)高原地区の地域活性化の取組について

会　長

教育・子育て、農業・里山の活用、地域振興と諸々の柱はあるが、私共の方で最近福住校区で進展している取組をまとめさせていただいた。そこをまず概略としておさらいさせていただき議論をすすめさせていただければと思う。

事務局

資料に基づき高原地区の地域活性化の取組について紹介

(2)教育・子育て支援の取組について

会　長

資料にある教育・子育て関係について、小規模特認校制度は本まちづくり協議会でも議論させていただいた中で実現している。これは地域の方にも登下校の見守り等でお力添えをいただ

いているところだが、まずは状況を学校教育課から説明させていただきたい。

事務局

昨年小規模特認校を始めるにあたって、本当にうまくいくだろうかという若干の不安もあったが、いざ始まってみると地域の方にもたくさんのご支援を頂いて子供たちを見守っていただいた。おかげさまで子供達も大きな事故・怪我もなく楽しみながら通学ができ、最初は30分以上かかっていた通学時間も20分余りで通学できる体力がついてきた。多くの方に見守っていただく中、平成30年度は新たに４名の生徒がこの制度を利用して福住に来てくれるようになった。合わせて１２名ということで、全体からすると２８％くらいの在籍率になっているところだ。学年でいくと、新１年生が２名、新２年生が３名、新４年生が５名、新５年生が２名ということで、５年生を中心に新しいコスモス分団が動いていくことになる。これは地域の皆さんの温かいお心遣いがあって成り立つものですので、今後ともご支援とご協力をお願いしたい。

会　長

若干補足をすると、平野部から通っている子どもたちをコスモス分団と呼んでいる。この事業はともすればそのこどもたちのためのものかと取られてしまう。実際その部分は大きいが、実は福住校区の子どもたちだけでは来年度の人数は３０名になり、１年から６年まですべての学年が複式学級となる予定だった。ここに１２名のこどもたちが追加され、市からも加配することで、１年生から６年生まで複式学級を解消できる見込みである。このように受け入れて頂くことで福住の子どもたちにとっても学年別の学習環境を守ることができる。またコスモス分団の保護者の方は地域行事にも熱心にご参加いただいている方が多い印象である。

福住のタウンミーティングを行った際には足の確保としてスクールバス等を活用できないかというご意見を頂いている。予算的な部分もあり直ちに対応するのは難しい部分もあるが、今後のコミバスの再編を含め中長期的課題として取り組ませて頂ければと思う。一方で、四季の移ろいや歩く道々など、徒歩での通学そのものがこどもの成長、来る楽しみになっている要素もあると考えている。タウンミーティングに来られていない方もいらっしゃるとは思うが、ご意見・ご要望等あれば伺いたい。

委　員

通学の見守り・付き添いを始めた最初はこどもたちも川の中を覗いたり、虫取りに走ったりで始業時間に間に合うのかと不安になったようだが、今は大分慣れてきてこどもたちの方が先へ先へと進むのでボランティアさんの方が後からついていくような形になっている。こちらにも溶け込んでいただいていることは喜ばしいこと。また、先日小学校の校長先生ともお話したが、まだ交通上危ないところはあるので、今ボランティアさんを募集して人員を増やして対応

いただいている。校区としても元気なこどもたちが増えるのは非常にありがたいと思っている。

水口氏

自分も見守りボランティアをやっているが、一番危ないと思うのは名阪のインターから降りてすぐの階段のところ。すぐ下が車道のうえ、子どもたちも勢いよく下りていくので危険性が高いと感じる。学校とも協議して対策を要請しようとしている。

会　長

横断歩道等もご指摘を頂き対応してきているが、安全対策の部分については市としてもできるだけきめ細かく対応していきたいと考えている。

この小規模特認校制度のお話が初めてこの協議会で出たのは確か２～３年前だったかと思うが、その時は１クラスのみ複式学級に該当していたため、校長先生も授業を対応されるなどで学級を分けることが出来た。ただ、もし皆様にご議論いただいてこれが実現されていなければ今頃は全学年が複式になっていた。全学年が複式ということは学校全体の存続に黄色信号が灯るようなものなので、本当にご協力いただき実現することが出来たのはよかった。ただ、これを確かなものにしていってこそ福住の子どもたちに安心して通っていただける環境を守れることだと思う。広くお気づきになった点等あれば伺いたい。

委　員

ずっと会議には参加させていただいており、身近な奈良市でも小学校が廃校になったりしている。コミュニティの維持には学校が必要だと制度に賛同させてい頂いた次第だが、実際に来られるご家族というのは何を求めてこられるのか。その辺りのリサーチはどうか。

事務局

目的はご家庭によって違うが、自然豊かなところでゆっくりと子育てがしたいという方、親御さんが福住出身で自分の生まれ育ったところで子どもを学ばせたいという方、また中には、お子さんの性格的に大人数の中ではどうしてもしり込みしてしまって自分が発揮できない、だから少人数の中でのびのびと育てたいという方もいらっしゃる。根幹としては福住にいる子もやってくる子もみんなにとってプラスになる取組をしていかなければと考えている。

委　員

朝バス停までは子どもが一人で来られるのか。

事務局

親御さんが送ってこられる。

会　長

様子を拝見すると、今日はこの方が送迎するといったように、コスモス分団の親御さんの中にも繋がりが出来ているようだ。また団体待合所などを利用して待ち合わせをしたりしており、協議会間の連携にもなっているのではと思う。市全体としても子どもたちの個性によりいろいろな受け皿があるのはありがたいと思う。

〇ぽかぽかキッズサロンの取組について

堀内理事長

ぽかぽか工房理事長の堀内でございます。よろしくお願いいたします。

先日はぽかぽかみんなのフェス♪にご参加・ご協力をいただきありがとうございました。地域の皆様にも支えられ、和気あいあいとした楽しいイベントになったと思っています。

去年の１月からぽかぽかキッズサロンという子育て支援の取組をはじめさせていただいた。週一回、学校が早く終わる水曜日に実施している。子どもたちが学校から帰ってきて宿題をしたり、友達と遊んだり、自然豊かな園庭や周辺でいろいろな遊びをしたり、そうした様子をご紹介するのに毎月ぽかぽか新聞を作成している。保護者の方はなかなか中の様子がわからないので新聞形式で保護者との交流を図っている。様子はまた映像で見て頂ければと思う。

ぽかぽかみんなのフェスについては、幼稚園に子どもたちが遊ぶ遊具がない状態の中で何かできないかと企画させていただいたのがモノづくりのＤＩＹワークショップだが、東京から有名な講師をお招きして指導してもらい、テーブルやベンチ、パーゴラなどをみんなで協力して作成し外でもくつろげる空間を作った。同様にピザ窯を監修してもらい、作ったピザ窯でピザを焼いたりした。ほかにも、天理大学の国際貢献プログラムの発表としてネパールでの活動の様子の報告会をするとともに、ネパール料理店に出店いただき、知識だけでなく味も楽しんでもらえる企画を行った。

（以上の様子を写真と動画にて報告）

キッズサロンについては現在二十数名の子どもたちが登録していて、習い事やお迎えの都合で来れる時と来れない時があったりもするが、常に２０人以上の子どもたちが通っている。福住地域の退職された幼稚園・保育園の園長先生４名と、天理大学の体育学部の教育課程の学生２名がボランティアで手伝ってくれている。こうしたみなさんがバイトやご都合で来れないこともある中、保護者の皆さんにもボランティアを募っているが、預けたいと思っていただけても自分も見てもいいよとまではなかなかいかない状況だ。

会　長

堀内さんの事業についてはいろいろご参加いただいている方もいらっしゃると思うが、そう

した中で何かお気づきの点やご意見があればお伺いしたいと思う。

委　員

大学ともうまくタイアップしていただいている。また派遣できればと思うので、お声かけいただければ。

委　員

話には聞いていても地元としての認知度が高くなく、積極的な参加はできていないのだと思う。これだけのことを進めて頂いているのは本当に頭が下がる。ありがたいことだ。

会　長

差し支えなければ今の映像などを福住の方に見て頂く機会を作れたらと思う。やはり地域の皆さんに知っていただく機会を作らなければサポートの機運も高まらない。民間からも連携を受けてらっしゃると聞いているが、ほかに何か課題はあるだろうか。

堀内理事長

そうですね。金銭的な補助は受けていないが、サクラクレパスさんからクレパスを提供いただいたり、工具メーカーのブラックアンドデッカーから工具を提供いただいたり、あとはサッカーチームのレアルマドリードからサッカーボールを頂いたりしている。レアルマドリードからは将来的にキッズサロンでサッカーチームを作れるようなことがあれば、日本のサッカースクールに遊びに来たらいいと仰っていただいているが、なかなかサッカーができるほどの人数は集まらないのが現状だ。

会　長

そうしたサポートの輪が広がっていけばいいと思う。

一点行政の方からご報告とお詫びさせていただきたい。こうした取組をしていただくことを目的として、幼稚園の活用については本協議会の成り立ちくらいの時期からご議論をいただき、再び地域の交流拠点にするという方針に従って一緒に進めて頂く事業者を決めた。議会の承認も得て、今頃は堀内さんに全面的にお貸しして使っていただくという形で進めている筈だったのだが、手続きの過程で、当初の幼稚園の成り立ちの際に公図の整理が成されないままだったということが明らかになり、進め方の修正を余儀なくされた。一度市の方でも整理させていただく中で、事業の中身自体が本来なら公がしなくてはならないことだということで、ここを公の施設として位置付けながら、もっと使っていただける形にしていきたいと考えている。当初の計画からは変わった形の手続きで行うこととなるが、どうぞご了承をお願いしたい。

続いて、これも地域の方のお力添えで進めて頂いている福住Ｓジョブズスクールの取組と農

泊推進対策についてお話させていただきたい。

事務局

福住Ｓジョブズスクールと農泊推進対策の事業構造と概要等について農林課より説明。

前嶋氏

ＮＰＯ法人日本無形文化継承機構の前嶋です。ジョブズスクールについては県と市の教育委員会から後援をいただき、地元区長会・小学校・こども園や地域の皆様、大学生のボランティアのご協力を得て進めている。土曜学習ということで、土曜日または日曜日に地域の伝統行事に参加したり、干し柿作りなどの地域の伝統にチャレンジしてみたりしている。規模としては去年は年８回の実施に１１６名、平均すると１回１５名くらいの子どもたちが参加し、そこにスタッフや保護者など２５名くらいの大人がついて実施している。参加費は１０００円、スタッフはみんなボランティア。財源としては森林環境交付金と教育委員会からの土曜学習の補助金を交付いただいている。最初は福祉センターなどの建物内で実施することが多かったが、氷室神社のとんどに参加したときに、地域の皆さんと一緒になって子どもたちものびのびと、地域の方も子どもたちがたくさん来てくれて喜んでいただいたことがあり、今はもっと地域の行事に出ていこうということで動いている。今回は農泊ということで農山漁村の振興交付金を想定しているが、これはオリンピックに向けてインバウンドなどで農村にもっとお金を稼げる仕組みを作ろうということを目指している。最初に県からこうしたお金を利用して補助金が無くても自分たちの取組を続けていける仕組みを作っていきませんかと提案を受けて計画を始めた。２年間の間で、ジョブズスクールを一般の大人の方にも来ていただけるようなプログラムにしていきたいと考えている。また、地域内交通を試行したいと考えている。これはジョブズスクールに協力してくれている大学生がここに来るのにも苦労していることや、子どもたちが地域の中を移動する手段がないことから考えたことだが、運転手の謝礼等に費用を当てて何とかスタートできないか、そこから課題整理ができないかと考えている。地域の祭も維持が難しくなっている中、参加したいと思っている大学生や外からの人と、受け入れたいと思ってもらっている地元とをうまく繋いでいければと思っている。また、農業関連の事業としては、地域の農業生産の向上を目指している。宿泊や体験を通じて食材としての消費の機会を向上させるなどの農業振興を図りたい。平成 32 年には市で国際芸術家村の農産物直売所の開設が計画されているが、そうした整備までの間、農村部からの情報発信として針テラス等を拠点として地域に来てもらえる情報の発信強化を行っていきたい。そういった事業を考えている。

おおよその事業の実施内容は資料にある通り。農泊受け入れ環境の整備として、農泊の仕組み作りをしていこうということで先進地に事例を視察に行ったり、研修に来ていただいたりも考えている。事務局体制の確立ということで、今は大学生とやり取りしたり、イベントの参加者を管理したりもしているが、簡単なようでなかなか苦慮しているところであり、そうした仕

組みをプログラマーの支援を受けながら作っていきたい。耕作放棄地の活用で酒米つくりを行ったりしているが、そこに天理市内で行っている柿の木オーナー制度の事務局の指導を頂いて、酒米オーナー制度としてスタートさせたい。スワッグは乾燥させた草花を花束のようにまとめたものだが、こうした素材は山にたくさんある。こうしたことにチャレンジしたり、特産品開発したり、これまでジョブズスクールでもやってきたワークショップなどを実施し、情報発信していきたい。コミュニティバス等の暮らし続けるための移動支援として、こどもたちの送迎から初めて、何か課題整理に繋げられればと考えている。その他マーケティングやイベント出展等を行いながら２年間取り組んでいきたいので、皆様のお力をお貸しいただければと思う。

会　長

ありがとうございます。今計画内容を含めてご説明を頂いた。皆様方から何かご質問やご意見があれば伺いたい。宿泊体験という点では市でも実施してきたが、どうしても今まではその場その場での対応になってしまっていた。この二年間できちんと受け入れられる基礎体制を作っていこうというご趣旨と捉えているが、これには地元のご協力が不可欠と思っている。

この内容は校区にはまだ伝わっていないだろうか？

前嶋氏

計画書に記載の団体等には説明させていただいたが、校区区長会や神社はこの４月が役員改選にあたっている。伝えてはおくがまた次の役員に改めて説明してくださいとのことだった。

会　長

国の交付金の申請のタイミングと校区の役員の皆様の交代の時期もありまして、また次の役員さんへご説明とのことだが、本まちづくり協議会としても趣旨には十二分にご賛同頂ければと思うが、いかがか。

前嶋氏

体験については、自分の事業だけでなく、地域でこんなことがあるというご紹介を一緒にさせてもらえればと思っている。また福住地区だけでなく、柘植や田原などの近隣地区への来訪者にも立ち寄っていただけるような広域的な取り組みが出来ればと思っている。

会　長

市でも広域連携は大事にしているところ、ご理解を頂ければと思う。市の直接予算ではないが、国に対して一緒になって取り組んでいければと思う。この進捗についてはまた今後の協議会の場も活用しましてご議論いただければ。

委　員

ジョブズスクールでは学生がお世話になっている。今年卒業する大学生の一人がこのテーマで卒論をまとめて卒業していきました。ありがとうございました。農泊の件について、申請後決定がなされるのはいつごろか。

前嶋氏

申請して、審査がおおよそ４月いっぱいかかるため、５月に入らなければ採否の通知はないものと思う。通知が来てから１月以内に交付申請を上げるので、事業着手は５月末以降からになる。

委　員

事務局としては採否の可能性はどれくらいか。

事務局

説明回答でも明言はされていないのであくまで参考だが、これは去年が初年度にあたる交付金制度で去年は３００件の応募に対して１６０件の採択があり、１／２の採択率になっている。

委　員

農泊については宇陀市では１泊３万５千円もするようなものがあると聞いている。前にヘリポートも作って、富裕層に来てもらう設定だ。

会　長

高級路線で一棟貸しをしているところもある。今後また増やしていかれると聞いている。いい民家などでいい物件なのだと思うが、そうした事例もある中で、高原地区としても空き家の議論等と絡めて検討していきたいと思う。

また、農業の事例については、地域の方主体で進めて頂いている事例もある。上山田農地保全会のご活動について、代表の中南さんからご紹介をお願いしたい。

中南氏

上山田農地保全会の中南です。先だって１７日にみちくさカフェという施設をオープンさせていただきました。その際には皆様大変ありがとうございました。

私ども農地保全会は、３年前に農業委員会の委員をしている中で、最近耕作放棄地が増えているが何とかできないかと村の中で相談したことをきっかけにして立ち上がった。費用のこともあり前嶋さんや市にご相談もさせていただいて、一緒にお米を作っていこうということでは

じめた。事業の中で農産物の直売所があったらいいなという構想があって、空家の納屋を借りて昨年７月に直売所を始めた。土日の９時～１４時まで、売り子は女性をはじめとした地域のお年寄りに協力を頂いている。平日とほとんど野菜のない１２月以降は無人販売所にしている。一番難しいのは、売り子にご協力いただく方、これはボランティアなのでどうご協力いただくかということ、またほかの販売所でも同じだが、若い人は働きに出ている中で売る野菜がなかなか集まりにくいということ。これは今後も課題になると思っている。

田植えと稲刈り体験、虫送り等の際にこうした活動のＰＲをしている。田植え体験については過去２年実施しているが、毎回４０名ほどの方にお越しいただいている。人を集めることについては皆様にもご協力を頂いているところである。体験料は５００円で昼ご飯付きということで、こちらの経費には全くつながっていないが、手で稲刈りをしたり笹掛をしたりなどの体験をしていただいている。また、虫送りは市の事業もあって多くの人が訪れる。この時に直売所を経営して草餅などを販売したりしている。我々もまだまだ走りながら考えているところでして、今後いろいろご指導いただければありがたいと思う。

委　員

田植え・稲刈り体験は天理だけでなく大阪や京都からもお越しいただいている。みちくさカフェや直売所は地域の方が交流拠点となっているのが何よりだと感じている。また、空家についてもオマーンから来日した作家さんが一週間程度宿泊された。またこちらに来た際には来たいと仰っている。今年のマスカットフェスティバルの際に関係者と行かせていただいて、宿泊のお礼ということでマスカットの方では結構なおもてなしを受けた。こうしたことを通じて奈良とオマーンの友好関係が進んでいけばと思う。

前嶋さんから先程お話もあった宿泊体験について今後つながるかはわからないが、明日香村と奈良の山間で宿泊体験をかなり受けている中、インフルエンザが流行った時期に家の方が罹ってしまい助けてほしいということで、中国からの小学生を一泊預かったことがある。食事は関西らしくたこ焼き・お好み焼き・焼きそばを作ったが、焼きそばが一番好評だった。朝起きたら季節柄雪景色で、雪が見れたととても喜んでいた。海外からも多くの人が来ていて、宿泊体験は長野県が日本では一番多く受けているが、奈良県でも月に２～３００人が来ているという。中国ではグループでの修学旅行が盛んで、日本に来る子、アメリカに来る子、オーストラリアに来る子など様々である。またこちらにもたくさん来られるので、前嶋さんが取り組んでいただく中でこちらにも受け入れできれば面白いと思う。

会　長

まずはみちくさが地元の皆様の交流拠点になっているということで、田植え体験等には大阪や京都からも参加されたということだが、何でイベント知って来られたのでしょうか。

委　員

Facebook ですね。

会　長

SNS を通じて直接ご覧になって申し込んでいるということですね。また、実際海外の方が来られても相当満足してはお帰りになられているということなので、素材としてはポテンシャルがあるということは確認されている。あとは体制づくりということかと感じる。この件についてみなさま、ご意見等ございましたらどうぞ。

委　員

やはり難しいのは集客力ではないか。皆様一生懸命取り組んでいただいて、元気の源として考えていただいていると思う。それを利益に繋げていくのはやはり集客力だと思う。そこは私も勉強不足な部分があるとは思うが、難しいところがあるのではないか。

会　長

市内で自主的に始まったマルシェで定着したなというものでは柳本のマルシェがある。あれは 169 号線沿いで定期的にやっているということで、通れば気づくこともあり、最近ではもう９時になると完売しているというような状況だが、そちらは交通的に恵まれているという特殊事情かとも思う。広報も含め私共も引き続き協力させていただければと思うが、ぜひこの校区内でもまだご存じないということがあれば、ぜひご協力いただき広めていただければと思う。

今、いろいろとキーワードが出てきた中に酒米があった。もうすでに触れた点ではありますが改めてご説明をいただければ。

委　員

山田錦の品種で吟のさとというものがあり、山田錦より背が低く育てやすいということで数年前に街づくり協議会で話が出て、どなたか作っていただけないかと公民館でお話させて頂いた中で岡本さんという方が手を挙げてくださった。はじめは等級の取得もどうかと言っていたが、いきなり一級の等級を取る酒米ができ、稲田酒造さんでお酒を造っていただいた。福住の皆様にお世話になったこともありお披露目会もさせていただいた。今年はだいぶん美味しいお酒ができたとも聞いているので、引き続きずっと続けていければと思う。

会　長

酒米を作られる方は増えたのでしょうか。

委　員

今年新しく酒米作りにチャレンジされるという方がいる。京都の酒蔵に３年間修業された方から酒米の相談があり、この近くで育てられるということになった。どのようなお酒になるかはわからないが、そうした取組もされている。

会　長

広い意味ではこの高原エリアで堀内さんも取り組んでいただいている。何かお気づきの点がございましたらどうぞ。

堀内氏

酒米を作るのはとても大変だと思う。初年度は酒米を作るのは難しいのではないかと普通米からチャレンジしたが、やはり酒米にこだわりたいということで以降は都祁の方で酒米の山田錦を作らせていただいた。やはり収穫が遅いというのと、周りに山田錦がないということで、育てにくい環境にある。イノシシやシカも刈られていない田んぼに集中して入ってしまう。このあたりはコシヒカリだったりするので収穫時期が違う。コシヒカリの収穫が終わった後、害獣が全部うちの田に入ってきてしまう。電柵を３重くらいにしてもダメで、猟友会の方に檻を置いてもらっている状況だった。今年はこちらも攻めるしかないということで、面積を一反から三反に増やして獣を分散させようと思っている。兵庫県等に視察に行くとやはり周りの田もすべて山田錦なのでこういったことはない。

委　員

地域的に食米は早生だが、酒米はどうしても遅く刈ることになるので、堀内さんもおっしゃる通りそこだけぽつんと酒米が残ってしまう。ただ、生活全般のことで考えていくとやはり害獣対策のことも検討していかなければならないと思う。

水口さん

昔はこの山間でも酒米を作っていたが、ある時から酒米づくりが大変だということで作らなくなっていった。性質上酒米はお米の核だけ３割くらい残してあとはすべて削ってしまうので、うまくいけば儲かるけれど駄目になればどっと倒れてしまう。それで皆辞めてしまったということだと思う。下山田で営農組合を立ち上げたが、そんな風にどんとできればまだ可能性もあるのではないか。

会　長

若干のリスクもありながら、作る工程も含めてどう捉えるかということかと思う。今こうして個々の取組も出てきているということも共有いただいた。せひここはお互いに協力できるなというところがございましたら、連携を深めて頂ければと思う。

他になにかこのポイントについてご質問やご意見がなければ、次の議題である地域振興と移住促進のところに進ませていただきたい。歴史文化・地域資源を活用したイベント等ということで小野原委員からご説明いただきたい。

小野原委員

いつもご協力いただきありがとうございます。未来クラブとしてちょうど一年前に復元氷室の茅の葺き替えを行いたいということを発端に、こういうイベントをしていこうということになった。昨年８月くらいに区長会さんを中心に実行委員会を立ち上げて３回会合を持った。会合で方向性を定めて、10 月に PR パンフレットを作って針テラスなどの各施設に配架させてもらった。11 月の上旬に茅葺師の田中さんとボランティアガイドの岡田さん、みちくさの中南さん、活性化の水口さんにもご同席頂いて最終打ち合わせをして当日を迎えた。

どうやれば福住を知ってもらえるかということで、まず氷室神社に向かっていただいて岡田さんに案内いただいて、西念寺さんでお釈迦様を見せていただいて、それから木造校舎の山田公民館に移動、昼食と田中さんの茅葺の実演・体験で茅葺になじんでもらうというような行程だった。実際に茅に触って、すごく興味を持たれた女性の方もいた。最初は４０名定員を予定していたがなかなか広まりが届かず、最終２９名の参加となった。いかに人を集めるのが難しいかということを痛感した。それが一番の課題だった。こういうイベントもしているので、とダイレクトにご紹介させていただくなどでＰＲには工夫した。いろいろなおもてなしもあったが、皆様のご協力の下で福住に来てよかったという感想を持って帰っていただいた。ちょうど京都の下賀茂の神社の宮司さんも氷室の復元をしたいとお越しいただいていていたりもした。

せっかくなので次は氷室の葺き替えを実際に、地域の涼しさを感じてもらいながら見てもらえたらと思う。今年の氷出しが終わったら、８月盆過ぎくらいにしたいと考えている。また皆様にもご協力を頂ければありがたい。

また、先ほど小規模特認校制度の話もあったが、特認校でお子さんを通わせている保護者の方、特に女性の方がとても協力的だ。氷運びにもお子さんとどんどん参加していただいていて、地元に関心を持ってきてくれているのだと感じている。特認校制度については小学校から中学校への移行なども視野に入れて考えて頂いて、中学校でもぜひ福住でいろいろな体験をして学んで頂ければと思う。

会　長

タウンミーティングでも小規模特認校のことが出た。中学で行けなくなってしまうということがあってはならない。中学については必ずやると決意を持っている。

イベントについては定員には達しなかったが、京都・下賀茂などいろいろなところからお越しいただいた。復元氷室の屋根は大分苔むして老朽化している。今回氷を出した後に、茅葺師の田中さんと相談して葺き替えをすることになっている。それ自体もおそらく貴重な体験にな

ると思っている。あまりこれだけいろいろな方が見て頂ける環境での葺き替えもないと思うので、皆様にも地域内外の交流などでこの機会をご活用いただきたいということで情報共有させていただければと思う。

人を集めるという点では、長滝でされている源流体験ツアーは大和信用金庫さんと一緒にされているということもあって集客力がすごいと思っているが、そのあたりはいかがか。実際にたくさんの方が来られた印象というのは。

委　員

氷まつりと源流体験が同じ日で、去年はタイアップの都合もあって日程はずらせなかったので、氷まつりとの都合で少ししか顔を出せなかった。今年は源流体験とは別で子どもたちが昆虫を取りに来るというようなことも聞いている。

会　長

今、誰かと組んでやると相手側の都合もあって地元として困ることもあるというお話がでたが、我々が福住の皆様で何かを企画したときに、それだけで来ていただくというのも難しいことがある。どこかに繋がりを持っていらっしゃる方と一緒になって参加者さんを連れてきていただくというのは集客の点ではやりやすいのではないかと思う。どういう団体さんと連携させていただくかということを含めて考えて頂ければと思う。また、復元氷室を修復している姿を見る機会はなかなかあるものではないので、よろしくお願いしたいと思う。

文化の発信ということで続けますと、奈良国際映画祭のこの９月に行うオープニングセレモニーでの作品が、去年の 10 月に天理で撮影を行ったものであり、主人公の自宅が長滝で撮られている。そのあたりのことも含めてご紹介いただければ。

委　員

ご紹介を頂いてこちらに決まったと聞いている。10 月の上旬から撮影に入られて、地元の者も協力したりエキストラで出させてもらったりしていた。村始まって以来のことだができる範囲のことはしようということで、食事等への協力はさせていただいた。スタッフの方と協議をさせてもらったりと、貴重な体験をさせてもらったと思っている。９月の公開ということで、みんな早く観たいと上映を楽しみにしている。

委　員

福住校区のどこかという思いがあり、監督と一緒にあちこち回った。山田町も候補だったのだが、撮影の設定上田に稲を植えたまま置いておいてほしいという要望があり対応できなかった。平野部分でも探したがうまくいかず、長滝に頼み込ませていただいた次第だ。本当に地域の方にご協力いただき、市内全体としても民生委員さんがお食事を作っていただいたりと大変

ありがたかった。これは市民の皆さんと一緒になってまとめて頂いたものと思っている。

会　長

今回の予算を議会に認めて頂き、別途メイキング映画も作成している。９月の公開に向けてカンヌ国際映画祭への応募が決まったという連絡を受けている。ただ、私もまだ見ていないが、主人公の自宅の長滝、主人公の会社の櫟本、この２つがメインになっている。またこれをプロモーションにも使っていければと思う。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。

プロモーションの点では、移住の部分で都市圏等に発信を行っていただいている例があるのでご紹介したい。

事務局

１月６日開催「福住の里山暮らしセミナー」について概要説明。

前嶋氏

この会場になったふるさと暮らし回帰センターというのは、東京の有楽町と大阪の堺筋本町に事務所を構えて都市圏の方が地方に移住する窓口になっている。ホテル内の一角にあるので、土日を中心に会議室の一室を借りていろいろな自治体が各地域のセミナーを開催している。

５年ほど前から登録して利用しているが、よく言われるのが奈良県が来てくれないということ。県はあちこち利用されているのもあるが、東京中心で大阪には来てくれないと聞いている。それならば小規模特認校も始まって地域にも帰ってきやすい環境になった今、福住のセミナーを開いてみてはどうかと思った。また、亀の尾という品種で酒米をつくった。知人を通じて酒蔵に作ってくれないかと頼まれたものだったが、せっかく作ったものをどこかで出せないかと思った。これを出すということも含めてPRしたところ、福住出身で今、大阪で設計会社をされている方がいらっしゃって、社員にも稲刈りをさせたいと仰っていただいた。仕事や住むところを探している方や学生さんを含めて３名の参加だった。上山田の竹谷さんや上入田の岡田さんなど、先輩移住者の方にお話を頂いて、星空の美しさや車での生活など、ずっと住んでいる身では気づかない福住を上手にご紹介いただいた。また機会があればこうして紹介させてもらえればと思う。

会　長

ありがとうございます。実際にこういった暮らしセミナーにご参加いただいた事例も出てきたということで、こちらには外国からの移住の方もいらっしゃっている。映画の話もあったが、カンヌに持っていけるような映画作品がここで撮られたというくらいに、プロモーションの素

材は出てきた。我々も高原からの便りという冊子は作らせていただいている。次の議題としては、こうしたPRを通じて福住は素敵なんだと伝わった後に、見に行きたいですと言っていただいた時に受け皿がなければ住んでいただくことはできない。来年度に全力を挙げて頑張っていこうということで、事務局から説明させていただく。

事務局

空き家対策（相談）事業の進展

空き家調査の状況、空き家バンクの整備について報告

会　長

別所のお宅が使えるとこの協議会に出たのが２年ちょっと前でしたが、そちらに実際に引っ越してきた中島さんにもこの協議会でお話いただいた。行事ごとにあちこちでお会いしており、ご家族ぐるみで地域行事にも積極的に参加いただいているのではないかと感じている。
現在空き家コンシェルジュのホームページでも実際に見積もりを取られている事例などがある。絶対だれか来るかと言われれば保証はできないが、我々の実感としては物件があれば来る人は十二分に居ると感じている。ところが今はその物件がないので、みんな他地域に取られてしまっている。今から広報するにしても、まずもって我々に２～３件手持ちがあればここはどうでしょうかとご紹介ができる。もちろん住まれる方も改修費用もそれなりにかかるので、そこも含めて計算して考えられると思うが、まずは検討材料がないことには話が進まない。地域では人に来てほしいと総論は思ってらっしゃると思う。枠もできて、あとはここにはめ込んでいくだけという状況である。お盆だけは親戚が来るので返してほしいというような特約を付けて貸したりしている地域もある。売買以外の形はどうだろうかという提案も含めてお受けできると思うので、またこのお話を校区の方でもバンクのオープンと含めてご説明に伺わせていただければと思う。
来る人の流れができてこそその他のサービスも充実してくる循環ができると思う。売るのは嫌だが貸すくらい、滞在くらいならという形で、農泊を含めたいろいろな事業の受け皿ができればと思う。そろそろ本格的に事業ができる物件が欲しいと考えているがいかがだろうか。周囲になんとなくそんな物権があると感じられる部分はないだろうか。

委　員

夏の協議会で自分の地区には空き家はありませんと報告したが、受け入れられるようなところがないというイメージが先行していたためにないと言ったが、これは難しいところもあると思う。角度を変えて、蕎麦屋などの店を営んでいる人を招くといったようなことができないだろうか。その人の得意なことを掛け合わせた移住というようなことができればいいと思う。

会　長

やっていただける方がいればぜひ歓迎したいところだが、やはり物件がない。空き家はたくさんありますよと仰る方というのは、あまりそこに人がいないというような感覚から仰るのだろうが、実際はいろいろな幅がある。利活用するにしても住人が施設に入られていて、実際には住まれていないが帰ってくる場所をなくしてしまうことはできないといったようなことも聞いている。我々も無理強いすることは決してないが、来ていただける方の人の流れを作っていこうと思っていただけるかということだと思う。

委員

空いているところは確かにあるが、それを紹介してもいいものかというのは難しい話だ。

会　長

まずは家主さんに繋いでいただくだけでもいいのではないかと思う。いきなりバンクに乗せるということではなくて、こちらからこんな制度ができました、こんな専門家がいますので一度相談してみませんか、というようなご紹介ができればと思っている。

委　員

空き家コンシェルジュの方と相談会の場所を福住に設けてはどうか。県の南部では税金の通知書を送るときに空き家の相談会をしますというような案内を入れてやっている。結構来ていただけるし、案内しておけば何かの拍子に思い出して電話問い合わせがくることもある。一度福住校区の中で空き家相談会をして、そうすることで不安に感じてらっしゃる部分を和らげることができるのではないか。

委　員

そうした説明を頂ければ一つのきっかけになるのではないかと思う。

会　長

いきなり売りませんかでは身構えてしまうところを、相談会がありますよというようなお話を地元でしていただいて、考えるきっかけにすると。どうだろうか。

事務局

空き家コンシェルジュとも相談させていただいて進めさせていただきたい。また、空き家コンシェルジュは年に何回も県内各地で相談会を実施しているほか、市でも年１回相談会を実施しているので、その辺りの周知も含めて対応させていただければと思う。

会　長

今回こういった話が出たので、福住校区内で相談会ができるかという点を含めて持ち帰って検討させていただきたい。また、うまく進みそうな場合は、そういった相談会の周知について地元にもご協力をいただければと思うが、いかがか。

委　員

ぜひやっていただければと思う。普段見ていても、空き家のオーナーさんの考え方まではわからないので、そうした相談会の機会に相談してもらえればいいと思う。

会　長

一足飛びに物件というよりも相談会から始めるという部分と、また、いい事例がありましたらそれは別件で掲載も進めさせて頂くというのと、その両輪で進めさせていただければと思う。ご意見やご紹介などありましたらどうぞ。

委　員

自分の裏の家も、絶対に売ると言って売るために手を入れたが、見に来られた方はみんな家が大きすぎるのと、手の入れ方が生活に合わないと言って断ってしまう。売るために手を入れて、その分を売値に上乗せして、結果要らないと言われてしまうのは残念なことだ。

会　長

難しいところではあるが、今高原地区などで古民家をイメージして来られる方は、昔ながらの木の材質を活かしながらリノベーションをするというのがお好きな方があるが、どうしてもオーナー様側は親切心もあって居住空間としての利点を高めようと都市部の住まいのような改修をしがちで、その結果来る人からすれば元の方がよかったと言われてしまうことがある。

だいたい聞いていると配管やキッチン・バス・トイレ周りはある程度新しくするという方が多い。これはバランスかと思うが、その辺りの事例も含め、どうすれば売りやすいかなど悩んでいることを解消してもらう相談会と思っていただきたい。

前嶋氏

民宿をしたいと古民家を探されていた方もいた。ひとつ思うのは、人が減っていく中で各集落にも大工さんや左官屋さんがいるので、そうした改修の際に業者さんが中に入って紹介するような仕組みを取って、併せて地域の仕事に繋げていくこともできないかということ。

会　長

そういったことも要素として控えさせていただければと思う。

それでは概ね議題と時間が一杯になったが、今日は教育から農泊・活性化と移住促進の話等出た。私共としても来年度に取り組んでいくべき課題をきちんと整理させていただき次の事業に繋げていければと思う。

締めくくりとして今日は大学の方からもお越し頂いているので、何か今日の議題を聞いていてのご感想等ありましたらどうぞ。

委　員

今日聞いていて思ったのは、農産物直売所のみちくさについて。自分は今までこういったところに行ったことがなく行ってみたいと思うが、大学生で交通手段を持たない。同じような人は多いと思うので、何らかの交通手段の支援があればと思う。

会　長

ありがとうございます。それについては何かまたいい機会を作っていければと思います。

事務局

次回については、皆様に動いていただいている事業、市の事業、それぞれのプロジェクトの進捗を見ながら日程のご相談をさせていただければと思う。

会　長

それでは本日は長時間にわたりありがとうございました。また３０年度もよろしくお願い致しまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

５．閉会　－２０:２０－